

会議名	第三回港区保健福祉相談記録システム構築業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和3年2月25日(木)
開催場所	港区役所9階 911～912会議室
委員	委員長 東海大学情報通信学部教授 小林 洋 副委員長 保健福祉支援部長 有賀 謙二 委員 一般社団法人ITCサンシャイン・ブレインズ代表理事 内田 勝也 委員 ひらつか西口法律事務所 山辺 直義 委員 みなと保健所健康推進課長 二宮 博文
事務局	保健福祉支援部保健福祉課
会議次第	1 第二次審査の概要について 2 第二次審査の実施 3 第二次審査結果及び事業候補者の選定について
配布資料	次第 資料1 第3回選考委員会進行スケジュール 資料2 保健福祉相談記録システム構築業務委託プロポーザル第二次審査の実施に関する留意事項 資料3 第二次審査採点基準表 資料4 第2回保健福祉相談記録システム構築業務委託事業候補者選考委員会会議議事録 資料5 【集計後、追加配布】第二次審査結果・総合結果表
会議の結果及び主要な意見	
1 開会	
委員長	お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。 ただいまから第三回港区保健福祉相談記録システム構築業務委託事業候補者選考委員会を開会いたします。本日は、事業候補者からのプレゼンテーションを受け、第二次審査の評価を行い、最終的な事業候補者を選定します。 本日の会議は、12時15分までの予定です。また、会議録作成のため、本会議は録音しております。なお、事業者名と選考委員氏名は伏せて、プレゼンテーションを行いますので、事業者入室以降は、委員間でお名前を申し上げないよう、ご注意ください。最初に、副委員長より発言を求められております。
副委員長	所用により、本日の会議をすべて出席することができません。最終事業者のプレゼンを聞くことができないので、公平性を期すために、この会議を欠席させていただきたいと思います。
委員長	欠席の場合の採点について、事務局より説明をお願いします。
事務局	有賀委員より欠席の申し出がございましたので、有賀委員以外の方で審査の方を実施していただきます。そのため委員欠席の影響で、一次審査の配点と二次審査の配点

	<p>バランスが崩れてしまいますので、透明性、公平性を担保するため、プロポーザル方式実施ガイドラインに基づきまして、事前協議をいたします。</p> <p>事務局としては、二次審査の得点を 500 点満点維持するために、各委員の二次審査の配点を 1.25 倍することとしたいのですがいかがでしょうか。</p>
委員長	<p>ただいま、事務局より、各委員の二次審査の配点を 1.25 倍し、500 点満点を維持するとの提案がありました。ご意見はいかがですか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
委員長	<p>では、そのように採点していただきます。では配付資料の確認をお願いします。</p>
事務局	<p>配布資料の説明</p>
<p>2 議題</p>	
<p>(1) 第二次審査の概要について</p>	
委員長	<p>第二次審査実施概要について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料 1 「第 3 回選考委員会進行スケジュール」の説明</p>
委員長	<p>今の事務局の説明について、質問はありますか</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
委員長	<p>これよりプレゼンテーションとヒアリングに入ります。A 事業者、B 事業者、E 事業者の順で実施します。この後、各事業者のプレゼンテーション及び質疑応答が終了するまで、事務局で進行及び時間管理をお願いします。</p>
<p>(2) 第二次審査の実施</p>	
事務局	<p>それでは、A 事業者に入場していただきます。</p>
<p>A 事業者プレゼンテーション</p>	
委員 A	<p>実施体制について説明してください。</p>
A 事業者	<p>私がプロジェクトリーダーとし、その他に基盤系に強いものが二名、その下にメンバー、管理支援者が 1 名という体制で考えております。もちろんパッケージを使いますので、パッケージの責任者との連携を考えています。</p>
委員 A	<p>パッケージでやる場合はその中心となる方がやるというよりも、それぞれ分担してやるということになるのですか。</p>
A 事業者	<p>作業は WBS で細かく分けて分担しますが、もちろん連携しなければいけないので、アプリ基盤、業務アプリケーションおよびパッケージすべて連携しながらになるかと思えます。</p>
委員 A	<p>アプリ部分の中心には、誰がなるのでしょうか。</p>
A 事業者	<p>人数制限の都合上、本日参加できませんでしたが、業務について詳しい者がいます。</p>
委員 B	<p>拡張が容易に出来るプランですが、画面操作は、見た限りは容易に出来たと思えます。一方で事前資料では費用範囲外が散見されましたが、今のご説明については費用範囲内という理解でよろしいでしょうか。</p>
A 事業者	<p>その通りです。</p>
委員 B	<p>相談内容によっては、更に機能や項目を増やしたい、改善したい要望が出てくると思いますが、これには迅速に対応していただける体制が取られていますか。</p>
A 事業者	<p>もともとパッケージの仕組みとして効率化されていますし、保守体制としても、アプリケーション性は維持しますので問題ありません。</p>

委員B	先行して他の自治体ともやられていますが、ここまでは費用の件でトラブルになる事例はありますか。
A事業者	費用に関してはパッケージの項目追加で、他の項目と関係性がないものに関しては、非常に簡単にできますので、保守内でやることも検討させていただきます。 ただ業務的に、ここの項目と別の項目が関連性を持つとか、特異なチェックを入れて欲しいとかになりますと、アドオンという形になりますので、ご相談させていただきたいと思っております。
委員B	先行導入している自治体とやり取りの中で、課題事例があれば教えていただきたいのと、その時にどういう対応されたのかを具体的に、差し障りのない範囲内で教えていただけますか。
A事業者	課題になるのは、他の事業者様と連携する場合があります。今回も仮想基盤上なので基盤側事業者とのスケジュール調整や役割分担の範囲などを事前に調整しますが、やはり直前になると想定とずれて、リカバーすることがあります。
委員C	提案の趣旨について伺います。価格評価もしている中で、見積もり範囲外を提案に入れている意図は何ですか。
A事業者	相談記録をデータベース化して共有して、確実なサービス提案に主眼を置いています。将来的には拡張、今流行りのAIですとか、その他の業務との連携も考えて、ご提案をさせていただいています。今回は、その主眼に沿った範囲という意味で、注釈的に費用範囲外という部分も提案にさせていただいております。
委員C	費用を見積り、提案範囲に入れば良いと思いますが、理由を教えてください。
A事業者	理由は2点ありまして、1点は費用的な問題、ご予算と我々の費用との問題。2点目は、しっかりと職員様とこの記録管理システムの運用を検討させていただきたい。今回初めてのシステム構築だとお伺いしていますので、初めから色々な機能を入れず、まず基本的なところをしっかりとした上で、その先に見える一つの選択肢として提案しています。
委員C	5年間の運用で費用追加がないと、おそらく利便性のあるFAQは実装されないのですか。
A事業者	ご提案の範囲の中ではそうなります。
委員D	ご提案いただいたパッケージというのは、一般的な汎用的なパッケージをベースに、今回の福祉相談システムを提案していただいたという理解でよろしいでしょうか。データベース設計というか、福祉相談に特化したというか、そこがすごく肝であり、個人ベースで基本的にはCRMパッケージは、人ベースになっていて、データはどう設計するかが重要なのです。パッケージ導入の経験ある方も今回のメンバーの中にいらっしゃるという理解でよろしいでしょうか。
A事業者	ご指摘の通りだと思っております。福祉業務それぞれに別の画面で要件があると思います。スケジュールも基本設計という工程になりますが、その期間を長く予定しています。実際は効率化ができますので、開発プログラミングを短縮した形で計画を考えております。
委員B	いろいろな分野での質問や相談をこの中に取り込むというミッションなのですが、そちらの事業者が考える福祉と保健分野の違いというのは、何かございますか。

A事業者	実務に関して詳しいものを連れてきていませんので、申し訳ございません。
委員B	実際にいろいろな職種の人が入力をしますが、その業種に合わせた項目や権限など、先ほどの説明では柔軟に設定できるということでしたが、その権限をどこが管理するのか具体的に教えてください。
A事業者	こちらはご相談になりますが、その権限を持った方が少なくとも1名から2名、現課様の方で配置していただきたいと考えております。福祉分野に関しましては、相談内容が違いますので、それぞれに合わせた画面設計、システム設計、目標設計でやらせていただきたいと思っています。
委員B	1名なり2名のこちら側の管理者が、制御するというような仕組みをとるということでよろしいですね。
A事業者	実際にセルフカスタマイズで操作するには、アカウントが必要になりまして、管理者カウントでそれは1名固定になるので、お休みのことも考えて2名でお願いしました。基本的には1名の方が操作する形になります。
委員D	今回、港区として目指しているのは世帯のカルテであります。実績が幾つか提案書に挙げてあり、世帯という形で管理するシステムの開発経験もあるという理解でよろしいでしょうか。
A事業者	パッケージを開発しております。世帯を核として、この世帯にはどういうご相談を受けているかについての実績もございます。
委員A	Symfowareというデータベースを使用するということで、そうすると復旧機能とかにも Symfoware に依存するようになってくるのでしょうか。
A事業者	Symfoware は一般的なデータベースですので、そのような機能も一通りそろっておりますので、問題ないと考えております。
委員A	他のデータベースに移行する時とかも容易にできるということですね。
A事業者	データベース間のデータ移行には形式変換が必ず必要になりますので、Symfoware が特別移行しやすいというわけではないですが、一般的なデータベースであり、問題はないです。
山本課長	<p>それでは、A事業者のプレゼンテーション・ヒアリングが終了しましたので、次の事業者の入室及び準備が整うまで、各委員は採点表の記入をお願いします。</p> <p>採点表は、全ての事業者が終了後、事務局が回収しますので、そのままお手元にお持ちください。それでは、続いて、B事業者のプレゼンテーションに入ります。B事業者の方に入場いただきます。</p>
B事業者プレゼンテーション	
委員C	要求事項3ページの自動ログオフについて、提案されているログオフされても困らない時間というのはどれくらいですか。
B事業者	数多くの導入実績があるため、内部で時間を細かく整理できます。具体的な長さは入力業務が多ければ1時間かかることもあり、ケースバイケースです。
委員C	設定した時間を超えると、途中まで入力したデータは消えてしまうのですか。
B事業者	そうです。
委員C	ガイダンス機能のデータを御社はお持ちなのですか。
B事業者	AIの相談ガイダンスは持っています。自治体経験の職員がこれをベースに、実証

	<p>実験やメンテナンスを行っている。その上で、さらに追加が必要ということであれば、港区さん自身でのメンテナンスは可能となっています。</p>
委員C	<p>チャットアプリのような書式で表示される音声認識の使い勝手はどうか。</p>
B事業者	<p>音声認識ですがスコアが100とすると、先ほどご紹介したものが90になります。一般的には80あれば優秀となりますが、やはり普通の相談ですと語尾をはっきりとしゃべってくれるかもあるので、その認識率によって、文書をメンテナンスしていく作業に時間が取られることもあります。</p> <p>普通音声登録すると、もう1回聞き直す場合は巻き戻しとか早送りをしなければならぬのですが、こちらの機能はしゃべっている文字が表示される場所を押していただくと、その内容が出せますので、それを聞きながら文書を正しく校正が出来ます。関連づけとして、記録表などにデータに取り込む場合、管理項目に紐付ける作業が普通に台帳に書き起こすのと比べると多少楽になります。</p> <p>このガイダンス機能は、AIで拾った言葉を文字に変換します。職員をサポートするためのガイダンス表示をしてくれます。そのガイダンスの辞書をいっぱい作れば作るほどガイダンスはたくさん出てきます。多少煩わしいということもありますが、相談レベルの平準化が出来るので、どんどん打ち出してガイダンスを表示していくことが望ましいかと思います。</p>
委員B	<p>音声認識のことですが、基本的に窓口で対応するので、窓口にマイクとか、何かそういうものを設置することが前提ですか。</p>
B事業者	<p>窓口で対面の場合はマイクが二つ必要になります。そのマイクをどちらがしゃべったかを認識するために集約措置も必要になります、マイクと集約装置をご用意いただいて、今回はそれも含めた形でご提案しております。</p>
委員B	<p>AIでのガイダンスなのですが、福祉制度や保健制度は毎年頻繁に変わります。更新については、どこが責任を持って行うのか、御社の方でその辺りをしっかりバックアップしてもらえるのか、具体なところ教えてください。</p>
B事業者	<p>ガイダンスにつきましては、弊社は福祉の一般的な業務システムも扱っておりますので、法改正についてはすべて把握しています。我々の方からもちろんメンテナンスかけますが、法改正によらないガイダンスを変更したいという要望に対しても、お客様の方でも変更できるような仕組みをご用意しております。そういった形で制度改正は対応して参ります。</p>
委員B	<p>費用範囲内でタイムリーに対応してもらえるということですね。</p>
B事業者	<p>そうです。</p>
委員B	<p>都内も含めて自治体への導入実績がありますが、その中でトラブルが発生した事案があれば、どのように対応したか、差し障りがない範囲で教えてください。</p>
B事業者	<p>トラブルではないですが、導入の時に基本設計が終わった段階で、仕様凍結になると思います。仕様凍結で固まったものを開発して行きますが、そこで稼働要望が出てくると思います。その時はそう思ったけど今は違うのではないかと、それは出来る、出来ないという話になるかと思いますが、お互いに合意のもと、対応期日を決めて、調整させていただいたことはございます。</p> <p>要件定義は重要であるが、弊社の設定だけで画面の構築ができますので、実際に動</p>

	<p>くものを見ながら要件定義をさせていただきます。イメージの違いをそのように抑止しております。相談業務に関しては、いろいろな事件とか起きたりするかと思います。その時に設定だけで構築できるので、できる範囲かつ特に命に関わるものについては対応させていただきます。</p>
委員D	<p>今回ご提案いただいたシステムですが、相談システムというパッケージがありますか、それともベースのものを要件定義とかなしながら、カスタムで作るのかを教えてください。</p>
B事業者	<p>パッケージシステムでございしますが、ベースとなるのはこちらの汎用台帳機能というものです。この機能は、パーツを組み合わせて設定をしているものですが、パッケージは基本的に国の制度のシステムであると必ず作ります。今回の汎用台帳機能というのは、各自治体、各固有の業務に応じて作っています。ですからパッケージといいながら、中身はほとんどその自治体様の業務に特化したシステムになります。</p>
委員D	<p>ベースがあって、世帯で管理をでき、それぞれの自治体の固有の業務なりを汎用的に作ることができるというイメージでよろしいですか。導入実績がかなりあるようですが、そちらでも皆さんはA Iの導入の支援というのも使われているのでしょうか。</p>
B事業者	<p>保健福祉相談記録システムというものが従前からあるパッケージで、A I相談支援機能というのはここ最近出てきたものです。A I相談機能の方は、最初のお客様が今年の3月に稼働する予定になっております。あとは今2団体で実証実験をしております。こちらでも今年度いっぱい一度実証実験が終わる予定です。</p>
委員A	<p>提案を拝見させていただくと、相談記録システムはSQLServerで作ってある、A IシステムはPostgreSQLで作ってありますが、前者はパッケージを使うということが、言語とか意識せずに作る方も作っていくことができるものですね、アドオンと書いてありますが、後半の方は今流行りの機械学習とかいう、独自で御社の方で作成しているものなのでしょうか。</p>
B事業者	<p>このA I相談支援機能というのは、単体でご利用いただけるものになっており、一つの製品として扱っています。ディープラーニングですが、A Eエンジン積んでおまして、回答の精度を上げて回答できないことを少なくしていく機械学習するような仕組みも持っております。今回はその業務システムとA I相談支援機能という製品を組み合わせ、ご提案をさせていただいております。</p>
委員A	<p>この音声認識が一つの売りになっていると思いますが、担当者が面倒くさいと言って、使わないこともあり得るのでしょうか。</p>
B事業者	<p>音声認識を使用しない場合は、普通にパソコンから相談記録を入力していただいて、そのフロントを強化することでA I機能があるとご理解ください。</p>
委員B	<p>多言語対応については、港区は特性として外国人の方が多いので、相談に見られたときの対応というのは、どのようにお考えでしょうか。</p>
B事業者	<p>これからバージョンアップをする予定がありますが、現在のところは多言語対応しておりません。これからの開発計画で多言語対応したいというご要望がかなり出てきておりますので、製品の方に多言語対応していく計画でおります。具体的な時期についてはお答えできませんが、対応が完了しましたら、皆様の方にもフィードバックする予定でございます。</p>

山本課長	<p>B事業者のプレゼンテーション及びヒアリングが終了しました。先程と同様に、採点の記入をお願い致します。</p> <p>それでは、続いて、E事業者のプレゼンテーションに入ります。E事業者の方に入場いただきます。</p>
E事業者プレゼンテーション	
委員B	<p>都内を含めて多くの導入実績があり、事前の資料によると保健所システムの構築が多数あるということですが、今回のプロジェクトは複数の職種業務が絡み合った相談システムになるわけで、特定の業種の保健師だけではなく、福祉職の方の記録というのはやはり視点が違うと思います。その記録の書き分けや整理の仕方などの切り分けをどのようにお考えか教えていただきたい。</p>
E事業者	<p>私たちは、保健所の保健業務を中心に展開していますが、保健業務としては世帯という切り口は同じと思っています。今回目指されているところも、世帯中心ということで、世帯を起点とした相談の把握といった観点では保健、福祉変わらないのかと考えています。記録の切り分けとしましては、各分野にその画面はつくれるような形になっています。項目を自由に選択できるような機能を持っていますので、各分野の管理項目等をお聞きして画面ごとに切り分けていくことを考えております。</p>
委員B	<p>記録の内容によっては、緊急対応を要するような事案も含まれるかと思いますが、決裁や上長の確認の仕組みについて、少し具体的に教えていただけますか。</p>
E事業者	<p>相談記録の供覧機能というものを持っています。相談の受けた担当者が、各係長、課長などの上司に対して、この支援で問題ないと決裁する機能で、弊社のパッケージシステムには、標準で供覧機能を持っておりますので、そちらで管理することを想定しております。</p>
委員C	<p>導入にあたって、プロジェクトマネジメント上、リスクはどのようなものを想定されていますか。</p>
E事業者	<p>リスクとしては、利用者人数が270人と非常に多いことと、各総合支所で分野ごとに管理されているため、その各総合支所の専門職の方がそれぞれのやり方をされていると思います。そこをまずシステムにするにあたって統一しないといけないと考えており、きちん集約できるかが一つのリスクかと考えています。</p> <p>ただそのリスクの回避としては、一旦各代表の方に集まっていただいて集約という案を出して、そこでまず現場の方に、設計工程が終了した段階で見ていただき、その設計工程の内容も把握していただいた上で、早くシステムのイメージをお見せできたらいいのかなと考えています。</p>
委員C	<p>プロジェクトリーダーの方は、今兼任でプロジェクトを幾つお持ちですか。</p>
E事業者	<p>こちらのシステムが入る令和3年度につきましては、このプロジェクト一本でやりたいと考えています。今回、区民に寄り添う形を港区様が目指してしまして、システムでご支援できると思っています。ぜひこのプロジェクト一本でやらして欲しいと上司に伝えています。</p>
委員C	<p>相談者の年齢は時間とともに変わるので、顔アイコン機能の画像は自動で変わりますか。</p>
E事業者	<p>年齢と性別を見て、年齢ごとに変わります。</p>

委員D	画面がとてもリッチなので反応速度が不安に思っているのですが、実際に使われている職員の方からは、不満などは出ていないのですか。
E事業者	<p>処理速度については、不満等はありません。かなり人口規模が大きい自治体への導入を目的にしたパッケージシステムですので、処理速度にはこだわりを持ってやっています。遅いということはずありません。</p> <p>こちらはマイクロソフトのスマートクライアントという機能を使っています、ウェブブラウザではない独自ブラウザを使っております、そういったブラウザでは、若干タイムラグみたいなものがありますが、今回このWindowsのGYを使ったスマートクライアント機能ですので、そのスピード性の実現をしております。</p>
委員D	東京都の方で2015年に稼動したという実績がありますが、2015年というところから6年ぐらい前になりますが、当時からあるパッケージなのですか、それをバージョンアップして今回ご提案いただいたパッケージですか。
E事業者	バージョンアップはしております。基本的には年に1回バージョンアップを行っておりますので、バージョンアップしたシステムです。
委員D	今東京都の方で使われているシステムは、要件はいろいろ違うかもしれませんが基本的なベースとなる部分は同じということですね。
E事業者	そうです。
委員A	設計を長くしっかりやるということですが、開発体制の業務グループのリーダーが設定については中心になるのでしょうか。
E事業者	設計に関しましては、一旦、管理責任者である私が開発責任者と兼務で行います。
委員A	人力的に無理がないか少し心配だったのですが、プロジェクトリーダーの方が実際にやられるということですね。
E事業者	私が、管理面と業務面をすべて兼任して、こちら一本でやります。
委員A	業務アイコンは、相手には見せないですね。
E事業者	職員の利用者しか見えません。
委員C	拡張性のところで、法改正対応にかなり力を入れていますが、情報収集はどのようにされていますか。
E事業者	国の検討会に参加して情報収集をしているのと、システムを導入している各自治体様から逆に情報をいただくこともあります。
委員C	かなり早い段階で、施行時には改修されているようなスケジューリングができるということですね。
E事業者	今回の例で言いますと、新型コロナの予防接種が急遽ありますので、高齢者の抽出も問題なく抽出できるシステムを提供しています。常に制度改正の情報は収集して早め早めにシステムの方針を決めて動いておりますので、施行時にはご提供できるという形で進めております。
委員B	相談の件数などの帳票類の出力についての質問ですが、保健師ですと調査とか地域保健健康増進事業の報告、定期的な報告等があります。そうした帳票類の出力が簡単なのか、研修を定期的にやられるというのですがバックアップ体制はどうか教えてください。
E事業者	国が求める集計や都が求める集計については、その様式通り出力できる機能を持って

	<p>います。国の改正も集計表がありますのでメンテナンスをして、いつでも最新状態の集計がとれる仕組みがございます。地域分析や相談の状況など突発的に集計が取りたい場合については、汎用統計という機能を提供しております。その汎用統計は、管理されている項目をエクセルでイメージすると、ピボットテーブルみたいなイメージで縦横を自由に集計できる機能なので、そちらの機能を使って汎用的な集計は取っていただくことを考えています。</p> <p>バックアップの体制につきましては、eラーニング等もご用意できていますので、そちらでeラーニングで学習していただく方法と、保守の中で操作がわからないので、何か研修会みたいなものを開いて欲しいという要望ありましたらそちらにも対応出来るかと思うので、そのようにバックアップ支援は行いたいと考えております。</p>
<p>(3) 第二次審査結果及び事業候補者の選定について</p>	
委員長	<p>これより、議題3「第二次審査結果及び事業候補者の選定について」審議を行います。まず事務局から、ただいま配布された資料5について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>各委員の採点を反映させまして、その合計について、1.25倍をさせていただきます。A事業者は、二次審査の合計得点が300点、一次審査と合わせた総合評価は1075点となりました。B事業者は、二次審査が375点、一次審査と合わせた総合評価が1153点E事業者は、二次審査で437.5点、一次審査と合わせた総合評価が1327.5点です。順位につきましては、A事業者が3位、B事業者が2位、E事業者が1位という結果でございます。説明は以上です。</p>
委員長	<p>それでは審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いしたいと思います。まず委員Cから反時計回りでお願いします。</p>
委員C	<p>A事業者は、人選に問題があり、プレゼンテーションの準備も十分でなかったと思います。B事業者はプレゼンが良かったです。ただガイダンスのところや、提案書に記載しきれてないところが非常に多く、提案書で伝えることができなかったことが悔やまれます。求めている機能に関しても、出来ないではなくカスタマイズで作るといった姿勢が欲しかった。E事業者に関しては、特に悪いところはなく、良かったと思います。以上です。</p>
委員D	<p>評価の結果として合計点としては、低い順でABE事業者という順番です。A事業者は普通です。B事業者はAIなどが提案としては面白いと思いました。実際に港区のシステムをB事業者でも何とかするのはという印象を持ちました。E事業者は良く知っているなとすごく感じました。会社の規模が若干不安ですが、会社として港区とやると、コミットしていただいたので、そういう点を評価した上で点数を付けさせていただきました。以上です。</p>
委員B	<p>私も同じ順位の点数を付けました。A事業者は説明が不十分であり、柔軟に対応できるのか、費用範囲外も含めて不安な面があり点数低めになりました。B事業者の提案は非常に面白く、AIを使ったところは将来性を感じましたが、未知の領域のところもあるので、そのあたりが不安要素だと思います。E事業者については、実績がたくさんあり、結果的に点数を高く付けました。直観的な操作性や「世帯のカルテ」をパッケージ標準機能だけで実現できます。なによりプロジェクトリーダーが非常に熱意があり、やる気を感じましたが、彼が倒れたらどうなるのかと感じながらプレゼンを聞いておりました。以上です。</p>

委員 A	<p>私も皆さんと同じような意見で同じように点を付けました。A事業者はプレゼンしたのが営業の人とプロジェクトマネージャーで、その業務に詳しい人が来ていなかったため説明が一般的であり、あとは Symfoware というデータベースが会社独自のものなので、オープンシステムでなくなるのが気がかりでした。B事業者については、音声認識は将来的には良いのですが、データが集まるまで結構手間がかかることもあり、今の時点ではまだ心配です。E事業者は小規模の会社なので開発体制に無理がないかが心配です。今回はプロジェクトリーダーが、専任でやっていただけるのですが、あの方が倒れたら心配なところはあります。プロジェクトリーダーが健康でいていただきたいですね。</p>
委員長	<p>審査結果や各委員様からのご意見から総括し、当委員会としては、E事業者を事業候補者として選定することとしますが、よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
委員長	<p>ご異議ございませんので、E事業者を事業候補者として選定いたします。それでは、事務局から各事業者名を発表してください。</p>
事務局	<p>選定されたE事業者は、日本コンピューター株式会社東京営業所になります。 なお、契約後の4月1日以降に、港区ホームページ等で選定された事業者名のみ公表をいたします。</p>
委員長	<p>次に事務局から連絡事項をお願いします。</p>
事務局	<p>資料4としてお配りしている第2回選考委員会の議事録については、各委員でご確認いただき、修正がございましたら、事務局までご連絡ください。また、本日の議事録についても、完成次第、確認のためお送りさせていただきます。この議事録についてもホームページに公表されますので、ご確認よろしくをお願いします。</p> <p>また、本日決定した事業候補者については、港区契約事務規則に従いまして、区の業者選定委員会に推薦し、審議を経ることとなります。また、企画提案書や採点表などの資料については、机上のまま、お願いいたします。こちらで処分させていただきます。</p>
委員長	<p>予定された議題は終了しました。それでは、以上をもちまして第三回港区保健福祉相談記録システム構築業務事業候補者選考委員会を終了いたします。長期間にわたり、ありがとうございました。</p>